

【目的】快適なウエストトップ-の設計条件を求めめるために、腹部の皮膚、筋肉の粘弾性（人体側の条件）を調べた。

【方法】被験者は、21歳から39歳の成人女子10名である。本研究の（その1）で述べた粘弾性測定装置を用いて、腹部の17部位から得られた、応力・ひずみ波形より粘弾性を求めた。①圧刺激に対する不快感(痛み)の許容限界上限のmappingと、②一定応力時の変位量（以後Dと呼ぶ）を求めた。③超音波診断装置（Aloka社、SSD-650）を用いて、得られた内部構造と①、②との関連を解析した。

【結果・考察】①. 17部位の圧刺激に対する不快感の許容上限地図は、被験者10名で全て異なった。②. 被験者10名におけるDのポイント間の相関係数を求めた。17部位中6部位（ウエストライン上の体側線との交点など）については相関（ $\alpha \leq 0.01$ ）は得られなかった（個人差のある部位）が、11部位（個人差のない部位）では高い相関が得られた。この高い相関が得られた11部位（ウエストライン上の前正中線、3cm体側より、乳頭線との交点など）は、更に、互いに相関の高いもの同士の組合せの3グループに分かれた。③応力・緩和波形の近似した測定部位の内部構造は、皮脂厚や筋の厚みが同程度であった。

①の結果より、非常に適合度の高いウエストトップ-を作製するためには、個人別に対応しなければならないことがわかったが、②の結果より、相関の得られた11部位に関しては、個人別の対応を省くことが可能であろう。